

(別添) 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム
(IPBES) 総会第12回会合 (IPBES12) の結果概要

1. 会議の概要

(1) 名称

日本語 生物多様性及び生態系サービスに関する
政府間科学-政策プラットフォーム (IPBES) 総会第12回会合

英 語 The twelfth session of the Plenary of the Intergovernmental
Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services
(IPBES)

(2) 期 間 2026年2月3日～同年2月8日

(3) 場 所 英国・マンチェスター

(4) 参加者 IPBES 参加各国政府、IPBES 専門家、国連環境計画などの関連国際機関など

(5) 公式ウェブサイト

<https://www.ipbes.net/events/ipbes-12-plenary>

2. 成果の概要

IPBES 総会第12回会合では、「生物多様性及び自然の寄与に係るビジネスの影響と依存度に関する方法論に関する評価（ビジネスと生物多様性アセスメント）」報告書の政策決定者向け要約 (SPM: Summary for Policymakers)^(※) が承認されました。

本会合は、2025年4月で勇退したアン・ラリゴーデリ前事務局長の後を継いで同年10月より新事務局長を務めるルサンド・ジバ氏のもとで開催された初めての総会となりました。日本からは、IPBES の「学際的専門家パネル (Multidisciplinary Expert Panel: MEP)」の議長を務める東京大学大学院農学生命科学研究科の橋本禪教授、「ビジネスと生物多様性アセスメント」評価報告書の作成に統括執筆責任者として携わった東京大学大学院農学生命科学研究科の香坂玲教授等の専門家、環境省、外務省、文部科学省、農林水産省等の関係者が、対面及びオンラインにより参加しました。

また、評価報告書の SPM を審議するワーキンググループ1においては、橋本教授が MEP の議長として、図表に係るセッションの議事進行を務めました。

なお、会合の成果の概要是以下のとおりです。

(1) 「生物多様性及び自然の寄与に係るビジネスの影響と依存度に関する方法論に関する評価（ビジネスと生物多様性アセスメント）」

この評価は、ビジネスが生物多様性（及び自然の寄与）にどの程度依存しているのか、またビジネスによる生物多様性への影響を分類した上で、こうした依存度と影響を測定する枠組や尺度、指標等を評価し、さらに、ビジネス及び関係する政府、金融セクター、市民社会などによる行動オプションを評価することを目的に実施されました。承認された SPM には、10 の主要なメッセージ（キーメッセージ）と、その背景メッセージ（バックグラウンドメッセージ）や根拠が記述されています。これらのメッセージのうち、日本のビジネスに特に関連性が高いと思われるメッセージを

以下に列記しています。

- ・全てのビジネスは生物多様性に依存し、影響し、前向きな変化の担い手になり得る。(キーメッセージ1)
- ・現在のビジネスを取り巻く外的条件（システム）は、公正で持続可能な未来の実現に必ずしもつながらず、システムリスクをもたらし続けている。また、世界全体で、自然に対して負の影響を伴う資金フローの約3分の2が民間部門によること等も提示。(キーメッセージ2)
- ・全てのビジネスは、生物多様性に依存し影響を及ぼしており、4つの意思決定レベル（経営、操業、バリューチェーン、ポートフォリオ）を通じて、これらに対処する責任を負っている。(キーメッセージ4、バックグラウンドメッセージA6)
- ・生物多様性に対する依存の評価よりも、生物多様性に与える影響に関する評価の方が進んでいる。いずれにおいても、適用できる方法・知識・データは既にあり、それらは意思決定に活用でき、また、新たな行動の機会を生む可能性がある。(キーメッセージ5、バックグラウンドメッセージB5)
- ・バリューチェーン全体で透明性やトレーサビリティを向上させ、更には関係者との協働を強化することは、ビジネスが自らの生物多様性への依存及び影響を把握しそれに対処する上で重要である。(バックグラウンドメッセージB10)
- ・金融機関は、生物多様性に有害な活動から、生物多様性に正の影響をもたらす活動へ、ファイナンス（投融資、保険等）を変えていくことができる。(バックグラウンドメッセージ B12)
- ・ビジネスによる生物多様性に対する影響及び依存は、ビジネスに対してリスク及び機会を生み出し、政府、金融機関、ビジネス等による協働により条件を整えることにより、ビジネスと生物多様性に有益な取組も後押しできる。(本アセスメントでは、これらの主体が取り組める100以上の具体的行動を提示) (キーメッセージ10)

(2) IPBES の有効性向上 (IPBES 作業計画の中間レビュー等)

前回会合で設置された、IPBES 作業計画の中間レビューに関する外部レビューパネルにより作成された報告書が報告されました。また、当該報告書の内容を踏まえ、次回会合までの作業計画が合意されました。なお、外部レビューパネルには、日本政府から鈴木渉環境省生物多様性戦略推進室長が参画し、中間レビュー報告書の作成に貢献しました。

(3) 作業計画への追加要素の検討

IPBES 作業計画の中間レビューの結果も考慮し、財政上の健全性の確保や、既存の IPBES 成果物の活用を図る観点から、作業計画に新たなアセスメントを追加することは見送られました。また、次回会合までの会期間において、アセスメントの実施を含む、今後の IPBES 作業計画の内容等について検討を行うことが合意されました。

(4) 学際的専門家パネル (MEP) メンバーの改選

IPBES の活動を科学的・技術的側面から支える学際的専門家パネル (MEP) について、現職メンバーの任期満了に伴うパネルメンバーの改選が行われ、国連の 5 地域区分からそれぞれ 5 名ずつ、計 25 名が選出されました。我が国が属するアジア太平洋地域からは、8か国（日本、韓国、中国、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール及びスリランカ）から合計 10 名の MEP 候補者が推薦されました。辞退者を除く 8 名の候補について、同地域のメンバー国による投票が行われた結果、我が国が推薦した石原広恵氏（東京大学大学院新領域創成科学研究科 サステイナブル社会デザインセンター 准教授）が、韓国、インド、インドネシア及びネパールの候補者とともに選出されました。MEP の任期は 3 会期間であり、1 回に限り再選が可能です。

(5) 2026–2028 年予算

IPBES の 2026 年予算は 8,506,369 米ドル、2027 年及び 2028 年の見込み予算は、それぞれ 9,569,126 米ドル及び 9,490,117 米ドルとすることが合意されました。我が国からは、2026 年分として 200,000 米ドル拠出する旨、また、公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) がホストしている「IPBES シナリオ・モデルタスクフォース技術支援機関」を引き続き支援していく旨を表明しました。

(6) 次回会合

次回会合 (IPBES 総会第 13 回会合 (IPBES13)) は、2027 年下半期に開催されることが合意されました。なお、同会合の開催地については決まっておらず、今後 6 か月間の募集期間が設定されることとなりました。

3. その他

- ・アジア太平洋地域会合において、東南アジア諸国連合 (ASEAN) が作成を進めている「ASEAN Biodiversity Outlook 4 (AB04)」について ASEAN 生物多様性センターからプレゼンテーションが行われました。我が国からも、2025 年 10 月に公表した「生物多様性及び生態系サービスに関する総合評価 2028 (JB04)」の中間提言や「生物多様性国家戦略 2023–2030」、また、生物多様性条約に基づく第 7 回国別報告書の作成状況等について情報や資料の提供を行い、多くの参加国から関心が示されました。
- ・「国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター (UNEP-WCMC)」主催による「National Ecosystem Assessment Initiative (NEA Initiative)」に関するサイドイベントにおいて、生物多様性日本基金による IPBES アセスメントの活用等の支援の経験、JB04 中間提言、我が国の第 7 回国別報告書作成の経験等について情報共有を行いました。
- ・現地時間 2 月 9 日に開催された「ビジネスと生物多様性アセスメント」に関するメディア・カンファレンスに先立ち、日本の報道関係者向けのメディア・ブリーフが行われました。なお、この 2 つのメディア関連イベントは、いずれも IPBES 事務局の主催により行われました。

<参考>

- 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォームとは
(*Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services* : IPBES)
 - ◆ 生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化するための政府間のプラットフォームとして 2012 年に設立された政府間組織
 - ◆ 2026 年 2 月 19 日現在、153 か国が参加
 - ◆ 科学的評価、能力開発、知見生成、政策立案支援の 4 つの機能が活動の柱
 - ◆ これまでに以下の評価報告書及びワークショップ報告書を作成した。
 - ・ 生物多様性及び生態系サービスのシナリオとモデルの方法論に関する評価報告書
 - ・ 花粉媒介者、花粉媒介及び食料生産に関するテーマ別評価報告書
 - ・ 生物多様性及び生態系サービスに関する地域・準地域別評価報告書
 - ・ 土地劣化と再生に関するテーマ別評価報告書
 - ・ 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書
 - ・ 生物多様性とパンデミックに関するワークショップ報告書
 - ・ 生物多様性と気候変動に関する IPBES-IPCC 合同ワークショップ報告書
 - ・ 野生種の持続可能な利用に関するテーマ別評価報告書
 - ・ 自然及びその便益に関する多様な価値の概念化に関する方法論に関する評価報告書
 - ・ 侵略的外来種とその管理に関するテーマ別評価報告書
 - ・ 生物多様性、水、食料及び健康の間の相互関係に関するテーマ別評価（ネクサス・アセスメント）報告書
 - ・ 生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因及び生物多様性 2050 ビジョン達成のためのオプションに関するテーマ別評価（社会変革アセスメント）報告書
- 関連リンク
 - ・ IPBES ウェブサイト
<https://www.ipbes.net/>
 - ・ 環境省ウェブサイト
<https://www.env.go.jp/nature/biodiversity/ipbes.html>
 - ・ IPBES 事務局主催の記者発表動画及び記者発表のページ
 - * 「生物多様性及び自然の寄与に係るビジネスの影響と依存度に関する方法論に関する評価（ビジネスと生物多様性アセスメント）」

動画 : <https://www.youtube.com/live/sSspA27mcwM>

記者発表 : <https://www.ipbes.net/bba-report/media-release>

以 上